

## 4 地球環境関係データ

### ■概要

#### (1) 大阪府域における温室効果ガス排出量の推移

府域における 2017 (平成 29) 年度の温室効果ガス排出量は 5,332 万トン (CO<sub>2</sub> 換算) です。前年度と比べると 5.3%減少しており、その主な要因としては、電気の排出係数の減少が挙げられます。また、2017 年度の二酸化炭素排出量は 4,954 万トンであり、前年度と比べ 6.0%減少しています。

#### (2) 大阪府域におけるエネルギー消費量の推移

2017 (平成 29) 年度のエネルギー消費量は 595PJ (ペタジュール) \*であり、前年度から変化はありませんでした。

※J (ジュール) はエネルギーの単位。PJ (ペタジュール) は 10<sup>15</sup>J を表す。

#### (3) 再生可能エネルギー等の導入実績

府における再生可能エネルギー等の導入実績 (令和元年度末時点) は、太陽光発電が 103.1 万 kW であり、前年度と比べ、5.8 万 kW 増加しています。また、コージェネレーション等の分散型電源が 55.0 万 kW、廃棄物発電等が 27.0 万 kW などとなっています。

#### (4) 酸性雨 (酸性沈着)

「酸性雨」とは、以前は大気汚染物質である硫黄酸化物や窒素酸化物の影響により、降水の pH が酸性 (pH5.6 以下) を示す雨のこととされてきました。しかし、現在では「酸性雨」は単に降水 (湿性沈着) だけでなく、粒子状物質やガス状物質 (乾性沈着) をあわせた「酸性沈着」として、国境を越えた広域的な問題としてもとらえられています。これらは土壌、樹木、湖沼などの生態系に影響を及ぼすおそれがあるといわれています。

府では全国的な酸性沈着に関する調査に参画しています。平成 25~29 年度の調査結果によれば、全国各地の平均で pH4.77 の酸性雨が降り続けていることが示されており、将来、これらによる影響が顕在化するおそれが考えられ、今後も注意深く監視を続ける必要があります。